

第三次郡山市食育推進計画

[平成 30(2018)年度～令和 4(2022)年度]

最終評価報告書

令和 4(2022)年 3 月

郡山市

第三次郡山市食育推進計画の最終評価

評価の目的

本計画は、「国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむ」ことを目的として、平成 17 年 6 月に制定された食育基本法に基づき、平成 21 年に「第一次郡山市食育推進計画」、平成 25 年に「第二次郡山市食育推進計画」を策定し、現在は「第三次郡山市食育推進計画」により食育を推進している。

今回の評価は、「第三次郡山市食育推進計画」の目標に対する実績値や取り組みの評価を行い、これらの評価結果をもとに、課題等を整理し、次期計画へ反映させることを目的に実施する。

評価方法

各目標項目について、計画策定時のベースライン値（平成 28 年度健康づくりに関するアンケート結果又は平成 29 年度まちづくりネットモニターアンケート結果）と直近の値（令和 3 年度健康づくり・食育に関するアンケート結果）を比較し、目標に対する数値の動きについて分析・評価する。

◎評価は A・B・C・D・E の 5 段階評価とする。

評価シートの指標の評価・分析には、直近の実績値が目標に達したか、達していないかを記載し、目標に達していない項目については、目標に向けて改善した、変わらない又は悪化した等を簡潔に記載する。

※計画策定時のベースライン値と直近値の比較に当たっては、原則として有意差検定*1 を行う。

※検定を行わない指標の B・D の評価区分は、相対的に 5% 以上の変化を目安として評価する。

評価区分	判定基準
A	目標値に達した
B	現時点で目標値に達していないが、改善傾向にある(片側 P 値*2(vs. ベースライン)<0.05)
C	変わらない (片側 P 値(vs. ベースライン)≥0.05)
D	悪化している (片側 P 値(vs. ベースライン)<0.05)
E	評価困難

*1 有意差検定：アンケートの集計の結果から、ある 2 つの値の間（ここではベースライン値と直近値）に統計的に意味のある差があるかどうかを判断するもの。

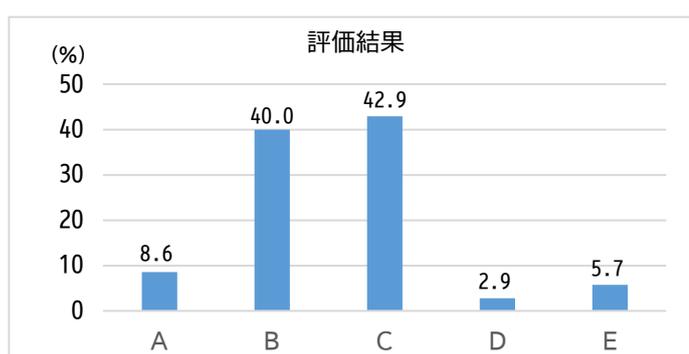
*2 P 値：観察された差が「偶然である確率」。P 値<0.05(5%未満)の時に有意差がある（偶然とは考えにくい差がある）とする。A~D に正しく判定することを目的に片側検定（片側 P 値）を行う。

評価結果

全 35 項目について、その達成状況を評価・分析した結果は、A が 3 項目(8.6%)、B が 14 項目(40%)、C が 15 項目(42.9%)、D が 1 項目(2.9%)、E の評価困難が 2 項目(5.7%)であった。

各目標値の評価の詳細については、評価シート 1 から 24 のとおり。

評価区分	該当項目数	割合(%)
A	3	8.6
B	14	40.0
C	15	42.9
D	1	2.9
E	2	5.7
計	35	100



第三次郡山市食育推進計画における目標・評価項目一覧

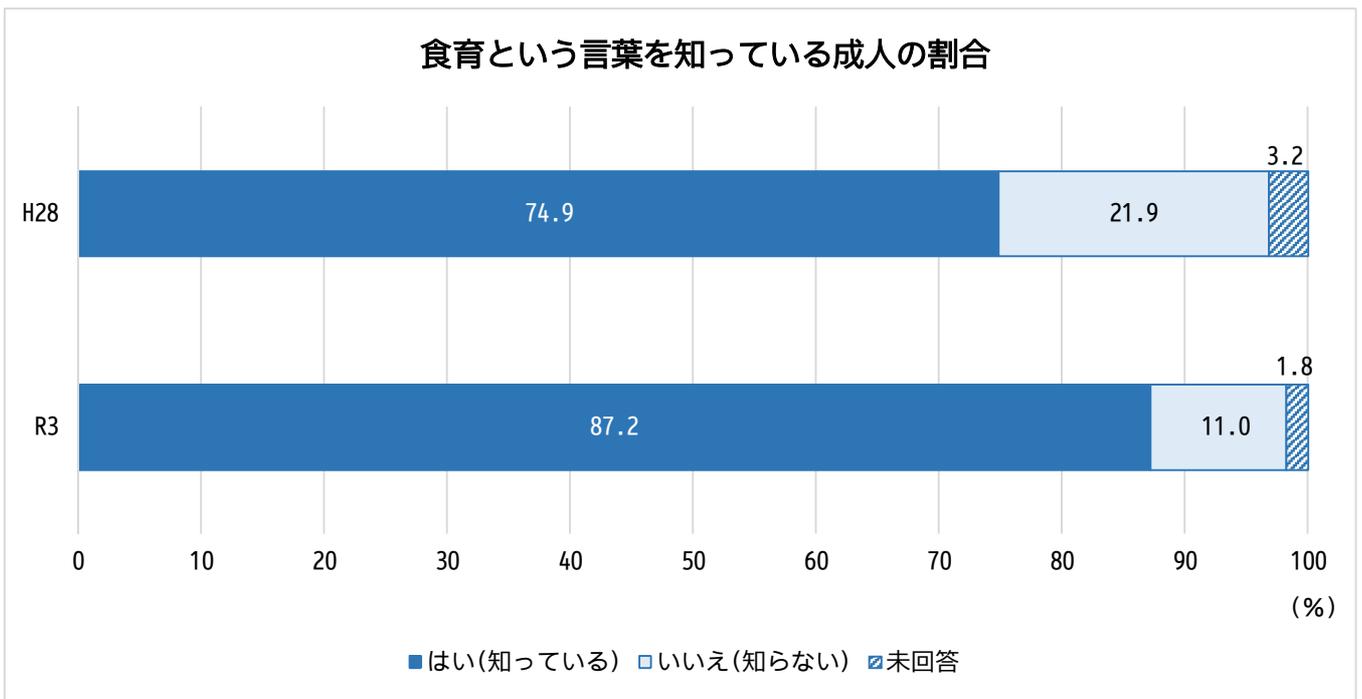
No	項目	策定時 [※] - [※] スライ H28(2016)年	評価時 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価	計画 ページ	調査名	
1	食育という言葉を知っている成人の割合	74.9 %	87.2 %	100 %	B	23	アンケート	
2	食育に関心がある成人の割合	83.0 %	84.7 %	90 %	C	23	アンケート	
3	主食・主菜・副菜を1日2回以上組合せて食べている成人の割合	54.8 %	63.7 %	70 %	B	15	アンケート	
4	外食や食品購入時に栄養成分表示を参考にしている人の割合	48.1 %	57.6 %	60 %	B	15	アンケート	
5	メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予防や改善のために取組んでいる人の割合	57.1 %	67.8 %	65 %	A	13	ネットモニター	
6	健康維持のために食生活を心がけている成人の割合	65.6 %	74.9 %	80 %	B	15	アンケート	
7	朝食または夕食を週4日以上家族と一緒に食べる人の割合	69.4 %	73.8 %	90 %	B	15	アンケート	
8	食事の時に食べ方（よく噛むなど）を意識している人の割合	65.1 %	74.6 %	75 %	B	16	ネットモニター	
9	毎日野菜を摂取している人の割合	83.4 %	86.5 %	100 %	B	13	アンケート	
10	塩分を取り過ぎないように意識している成人の割合	65.5 %	72.2 %	75 %	B	13	アンケート	
11	カルシウムを多く含む食品を意識して摂取している成人の割合	62.3 %	73.4 %	75 %	B	13	アンケート	
12	食育推進ボランティアの活動回数	18 回	25 回	30 回	B	17	実績	
13	栄養成分表示をしている施設の割合	一般食堂・レストラン	0.0 %	6.7 %	25 %	C	17	アンケート
		食品販売施設	0.0 %	100.0 %	50 %	E		
14	健康に配慮したメニューの提供をしている施設の割合	事業所給食施設	57.9 %	53.8 %	75 %	C	17	アンケート
		一般食堂・レストラン	22.7 %	46.7 %	50 %	C		
		食品販売施設	33.3 %	0.0 %	55 %	E		
15	きらめき健康応援店の認定数（外食等栄養成分表示店登録数）	26 店舗	16 店舗	100 店舗	D	17	実績	
16	毎日朝食をとる人の割合	幼児	91.5 %	95.1 %	100 %	B	15	アンケート
		小学生	97.0 %	98.1 %	100 %	B	19	児童生徒の朝食 摂取状況調査
		中学生	95.0 %	96.1 %	100 %	B		児童生徒の朝食 摂取状況調査
		高校生	84.3 %	86.4 %	90 %	C	15	アンケート
		20歳代男性	60.0 %	65.0 %	85 %	C		アンケート
		30歳代男性	74.3 %	84.2 %	85 %	C		アンケート
17	今までに農林漁業体験を経験したことがある人の割合	47.2 %	62.9 %	55 %	A	25	アンケート	
18	自分の適正体重を認識している人の割合	20歳代女性	68.4 %	67.6 %	90 %	C	13	アンケート
		30歳代女性	73.6 %	78.0 %	90 %	C		
19	肥満者の割合	50歳代男性	45.5 %	30.0 %	18 %	B	13	アンケート
		60歳代女性	22.4 %	24.8 %	12 %	C		
20	やせの者の割合	高校生男性	18.2 %	21.2 %	10 %	C	13	アンケート
		高校生女性	16.7 %	18.1 %	10 %	C		
21	子どもに時間と量を決めておやつを与えている保護者の割合	61.3 %	67.5 %	75 %	C	11	ネットモニター	
22	学校給食における郡山産農産物の使用割合	14.6 %	14.6 %	30 %	C	20	実績	
23	郡山産米「あさか舞」による米飯給食実施回数（週）	3.1 回	3.1 回	3.3 回	C	20	実績	
24	取去検査の違反件数	0 件	0 件	0 件	A	29	実績	

※アンケート：H28健康づくりに関するアンケート(策定時[※]-[※]スライ)、R3健康づくり・食育に関するアンケート(評価時)
 ※ネットモニター：H29まちづくりネットモニター(策定時[※]-[※]スライ)、R3まちづくりネットモニター(評価時)

第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート 1

推進の方向性	食育推進運動の展開			
目標項目	食育という言葉を知っている成人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
食育という言葉を知っている成人の割合	74.9%	87.2%	100%	B
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意に増加し、目標値には達しなかったが、食育という言葉を知っている成人の割合は増加し、食育の認知度は高くなっている。(片側P値=0.000)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・食育月間の展示、食育の日の庁内放送 ・食育推進ボランティア活動 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・小学1年生とその保護者へ食育のチラシ配布 ・食生活改善推進員※による活動(食生活の講話・調理実習等) 			
今後の課題	食育の認知度が上がるよう周知を継続し、食育という言葉だけでなく内容についてもさらなる周知が必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

問 食育という言葉を知っていますか。(成人票_食育1)

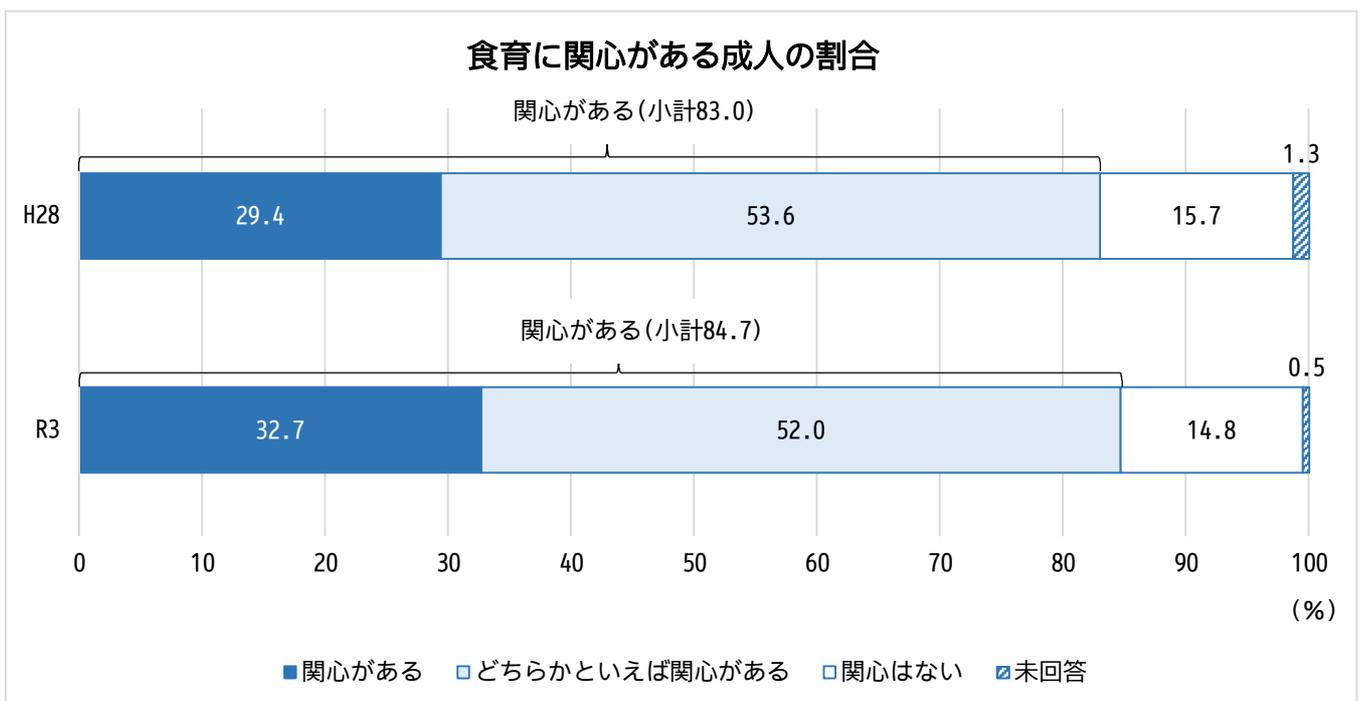


※「食生活改善推進員」は令和4年度から「食生活サポーター」に名称が変更となっています。

第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート2

推進の方向性	食育推進運動の展開			
目標項目	食育に関心がある成人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
食育に関心がある成人の割合	83.0%	84.7%	90%	C
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意な変化は認められず、目標値に達していない。(片側P値=0.195)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・食育月間の展示、食育の日の庁内放送 ・食育推進ボランティア活動 ・食生活改善推進員による活動(食生活の講話・調理実習等) ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・小学1年生とその保護者へ食育のチラシ配布 			
今後の課題	食育に関心がある人は高い割合で推移しているが、引き続き関心度が上がるよう周知啓発等の取組みが必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

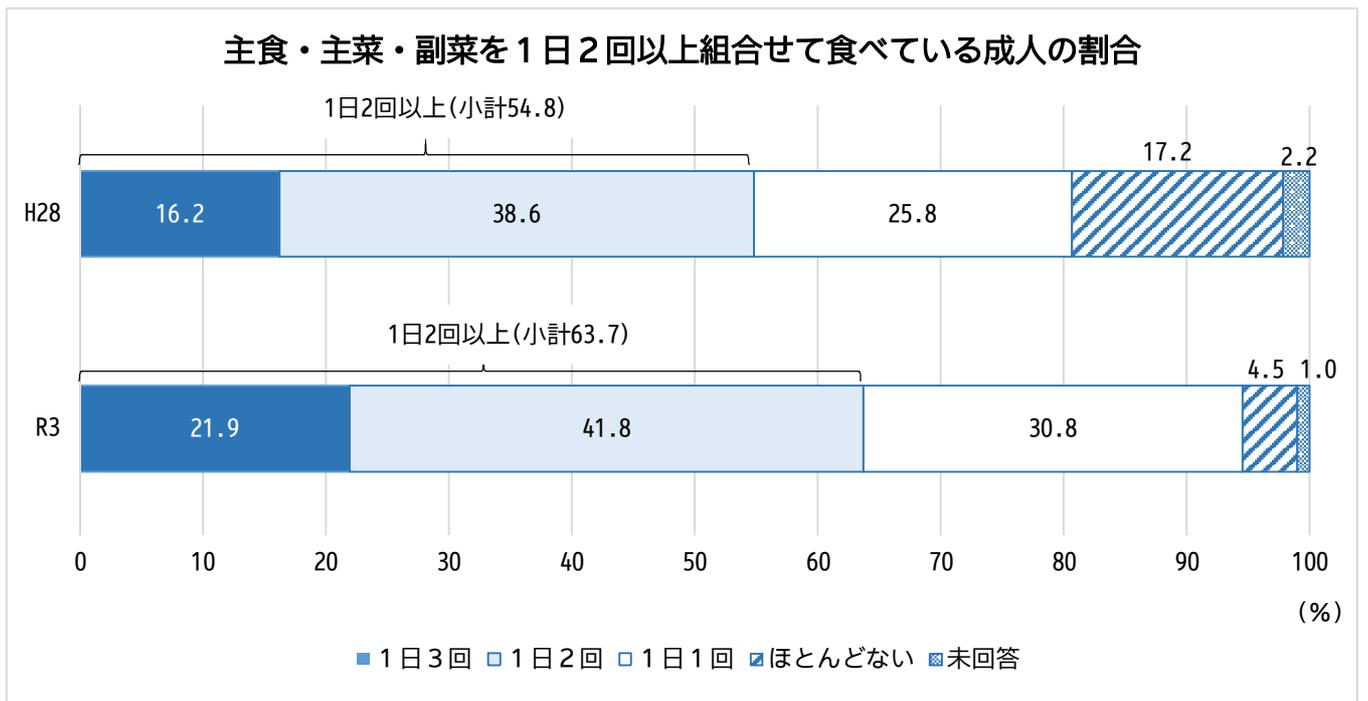
問 食育に関心がありますか。(成人票_食育1-2)



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート 3

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	主食・主菜・副菜を1日2回以上組合せて食べている成人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
主食・主菜・副菜を1日2回以上組合せて食べている成人の割合	54.8%	63.7%	70%	B
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意に増加し、目標値に達していないが、改善傾向にある。(片側P値=0.000)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育 リーフレット(計画市民版等)の配布 食生活改善推進員による活動(食生活の講話・調理実習等) 小学1年生とその保護者へ食育のチラシ配布 			
今後の課題	主食・主菜・副菜をそろえた食事(バランスのよい食事)の周知啓発は引き続き必要であり、20歳代・30歳代では、40歳以上の年代と比較すると割合が低いことから(アンケート結果p51)若い世代への働きかけや、外食や中食においてもバランスのよい食事をしやすい食環境づくりが必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

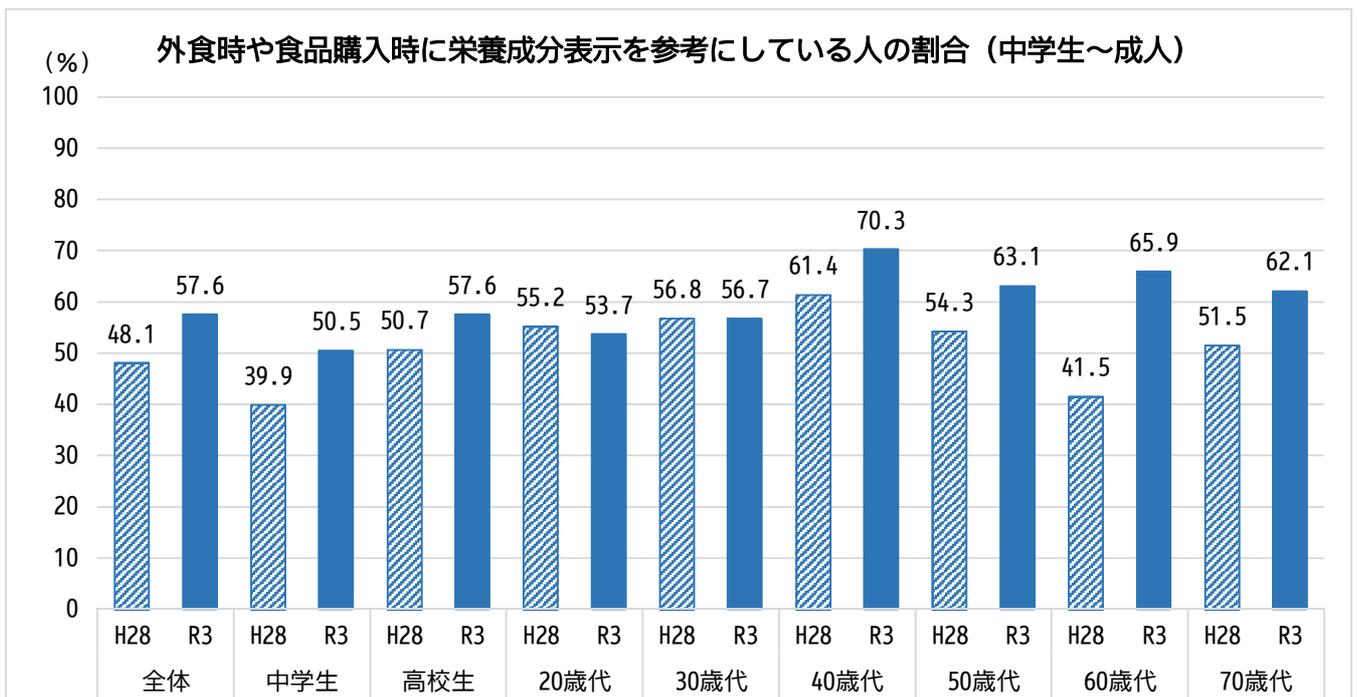
問 食事で主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることは、1日に何回ありますか。
(成人票_食育4)



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート4

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	外食や食品購入時に栄養成分表示を参考にしている人(中学生~成人)の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
外食や食品購入時に栄養成分表示を参考にしている人(中学生~成人)の割合	48.1%	57.6%	60%	B
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意に増加し、目標値に達していないが、改善傾向にある。(片側P値=0.000)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・食生活改善推進員による活動(食生活の講話・調理実習等) ・外食等栄養成分表示店推進事業(きらめき健康応援店) 			
今後の課題	<p>目標を達成していないため、今後も広く市民へ浸透するよう普及啓発を実施する必要がある。特に中学生から20歳代・30歳代の若い世代で参考にしている割合が低いため、ウェブサイトやSNSなどICTを活用した取組みの充実を図るなど工夫が必要である。</p> <p>また、栄養成分表示の見方や活用方法について、きらめき出前講座など研修機会の充実が必要である。</p>			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

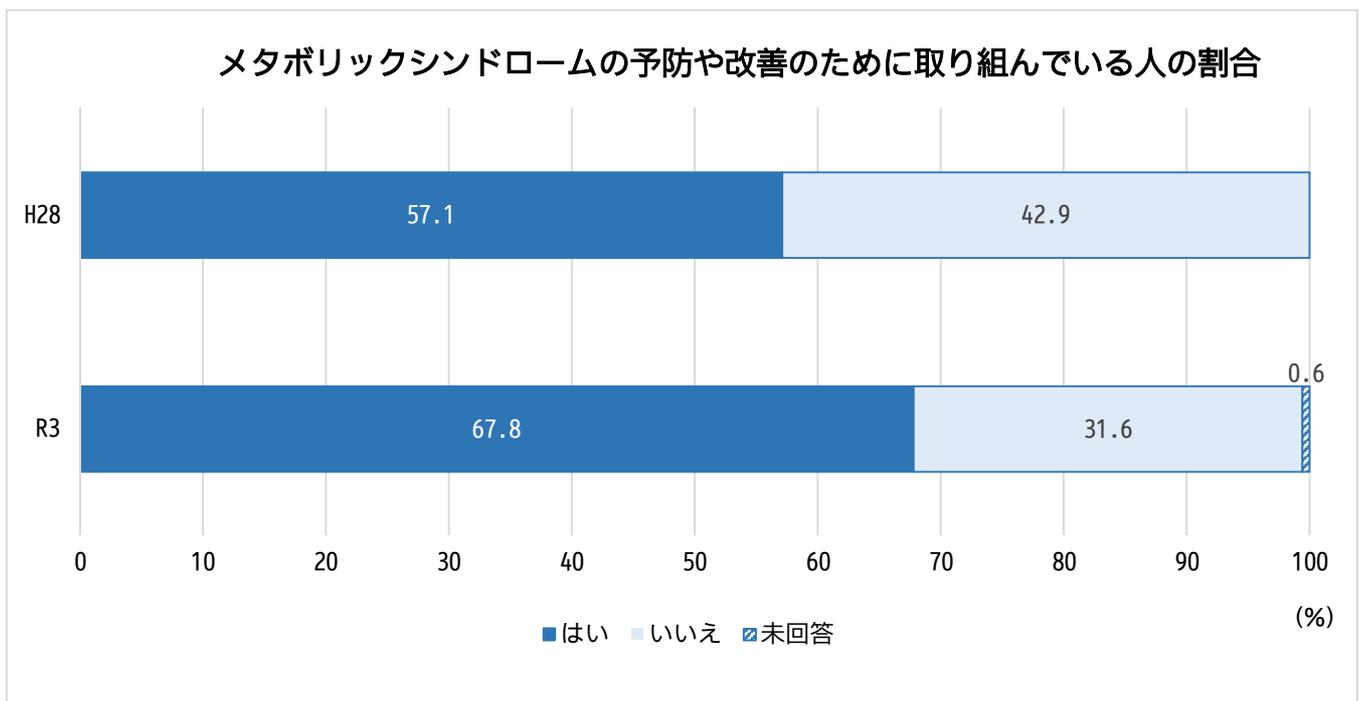
問 外食の時や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にしていますか。
(中学生票_食育12、高校生票_食育13、成人票_食育14)



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート5

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	メタボリックシンドロームの予防や改善のために取り組んでいる人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H29(2017)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
メタボリックシンドロームの予防や改善のために取り組んでいる人の割合	57.1%	67.8%	65%	A
調査名	まちづくりネットモニター調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意に増加し、目標値を達成している。 (片側P値=0.003)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・食生活改善推進員による活動(食生活の講話・調理実習等) 			
今後の課題	メタボリックシンドロームという言葉は、9割以上の方が知っており(令和3年度まちづくりネットモニター調査)、予防や改善に取り組む人の割合は目標値を達成しているが、依然としてメタボリックシンドローム該当者は多いことから、今後も予防・改善のための周知啓発を継続する必要がある。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

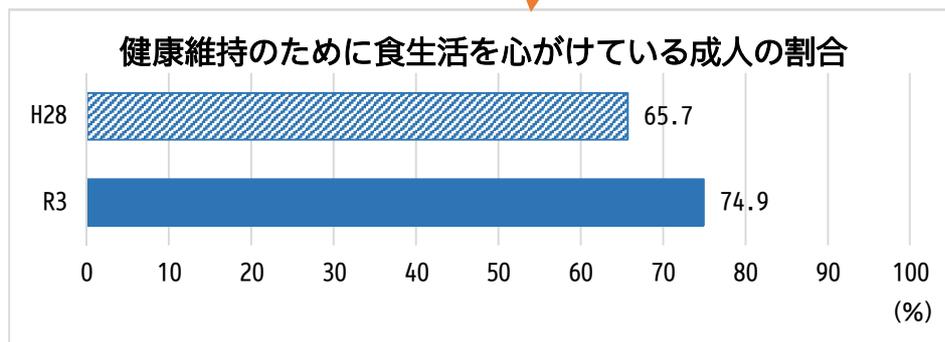
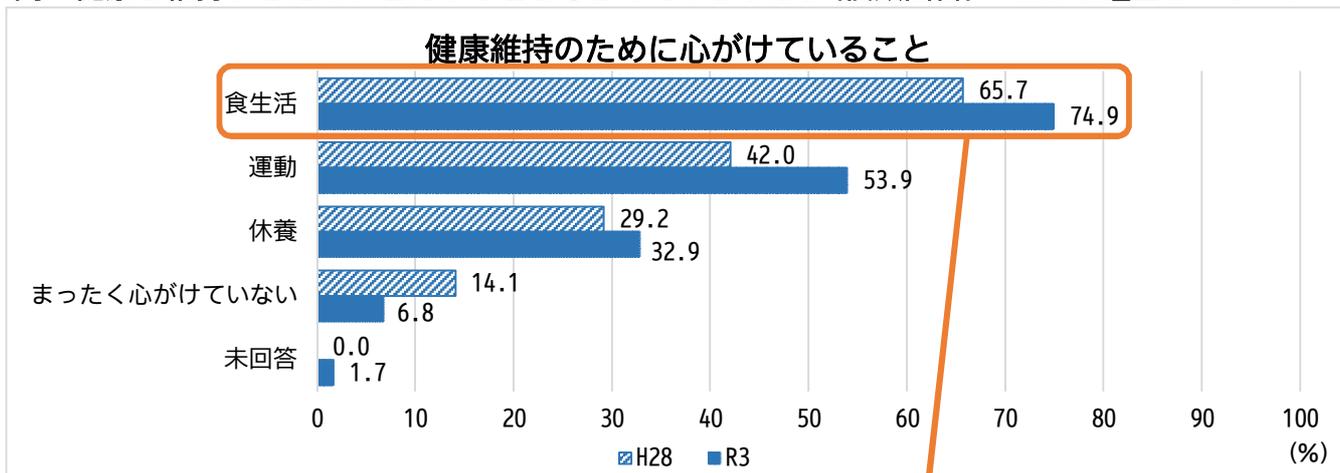
問 メタボリックシンドロームの予防や改善のために取り組んでいることはありますか。
(ネットモニター問6)



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート 6

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	健康維持のために食生活を心がけている成人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
健康維持のために食生活を心がけている成人の割合	65.6%	74.9%	80%	B
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意に増加し、目標値に達していないが、改善傾向にある。(片側P値=0.000)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・食生活改善推進員による活動(食生活の講話・調理実習等) 			
今後の課題	年齢が上がるほど健康維持のために食生活を心がけている人の割合は増加するが、若い世代の意識は低く(アンケート結果p39)、将来の生活習慣病予防のためにも、若い時期から食生活への関心を高めるための働きかけが必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

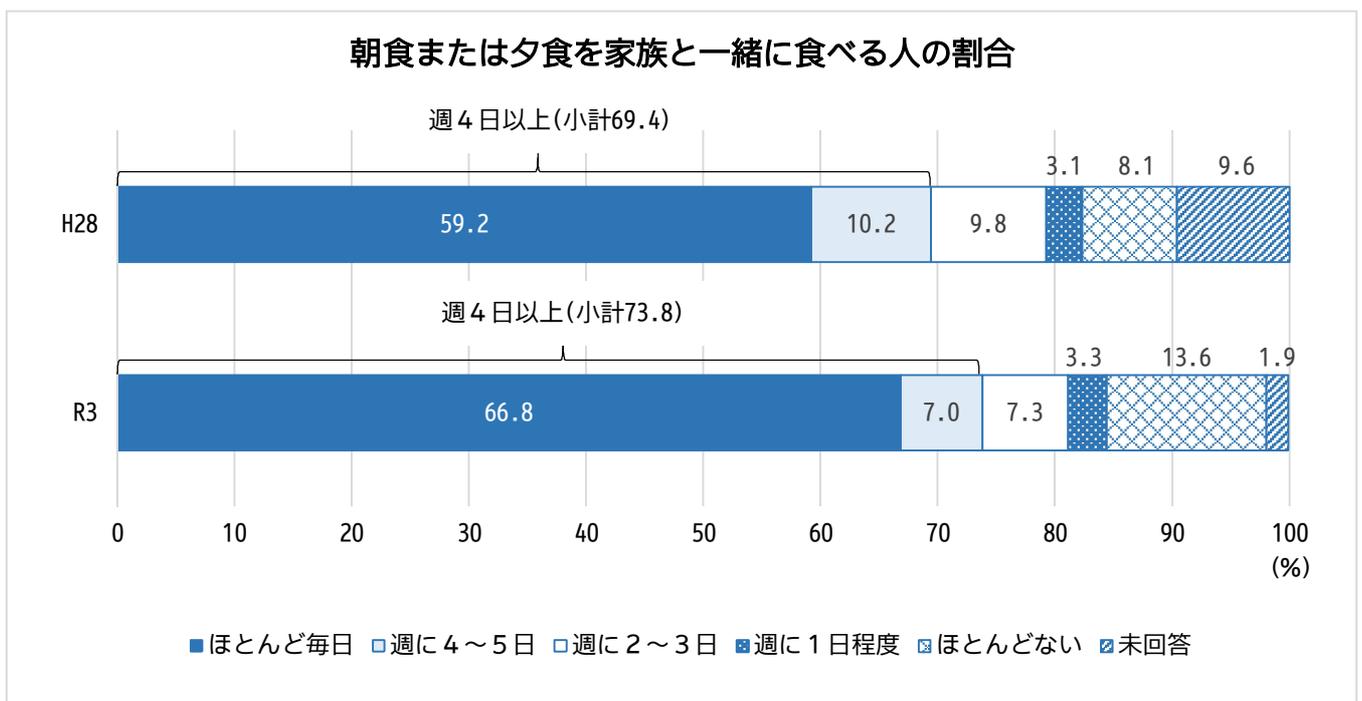
問 健康を維持するため、どんなことを心がけていますか。(複数回答) (成人票_生きいき10)



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート7

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	朝食または夕食を週4日以上家族と一緒に食べる人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
朝食または夕食を週4日以上家族と一緒に食べる人の割合	69.4%	73.8%	90%	B
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意に増加し、目標値に達していないが、改善傾向にある。(片側P値=0.021)			
関連する取組	リーフレット(計画市民版等)の配布			
今後の課題	家族の状況などにより一緒に食事をするのが難しい場合もあるが、できるだけ共食につながるよう、共食の大切さをより周知啓発することが必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

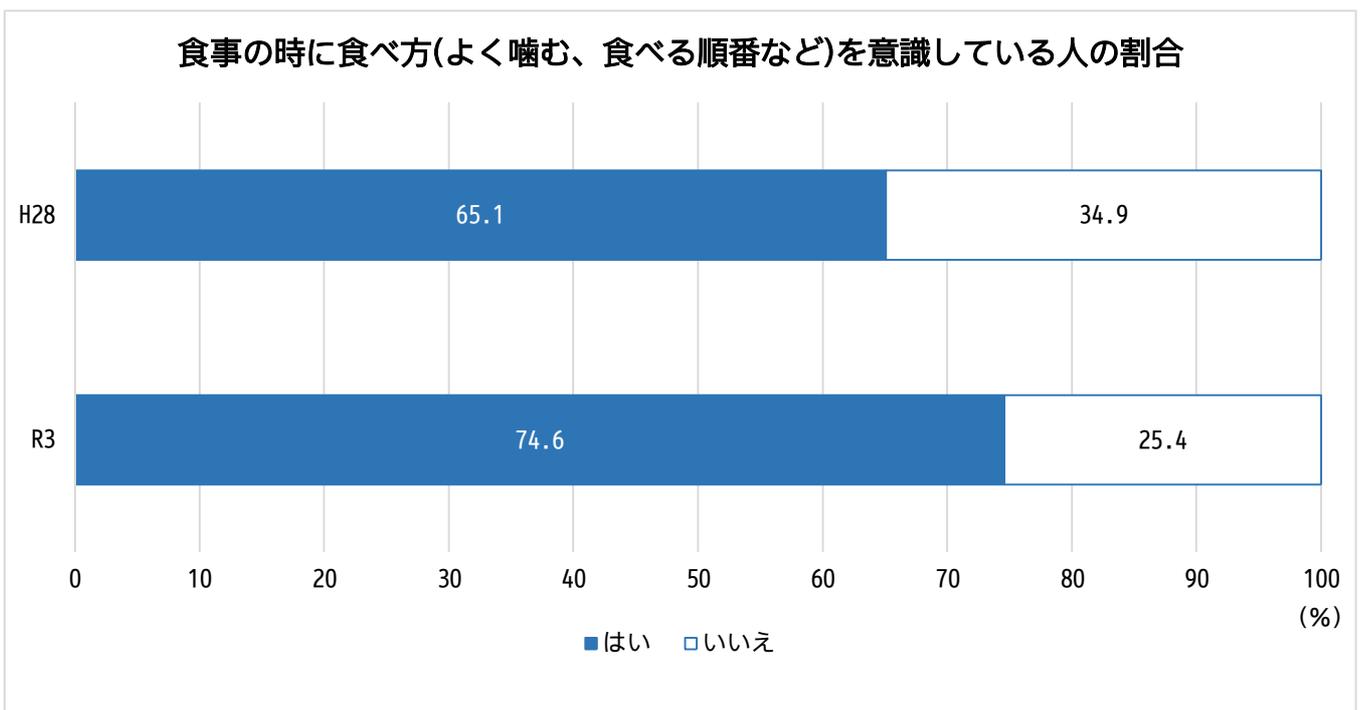
問 朝食や夕食を家族と一緒に食べることは、どのくらいありますか。(成人票_食育10)



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート 8

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	食事の時に食べ方（よく噛むなど）を意識している人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H29(2017)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
食事の時に食べ方（よく噛むなど）を意識している人の割合	65.1%	74.6%	75%	B
調査名	まちづくりネットモニター			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意に増加し、目標値に達していないが、改善傾向にある。（片側P値=0.005）			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 			
今後の課題	改善傾向にあるが、食事の時の食べ方についての解釈が広く、回答者により実践内容が異なると考えられる。国における第4次食育推進計画における目標では「ゆっくりよく噛んで食べる国民を増やす」とされており、目標項目について健康づくり・食育に関するアンケート調査をもとに検討する必要がある。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

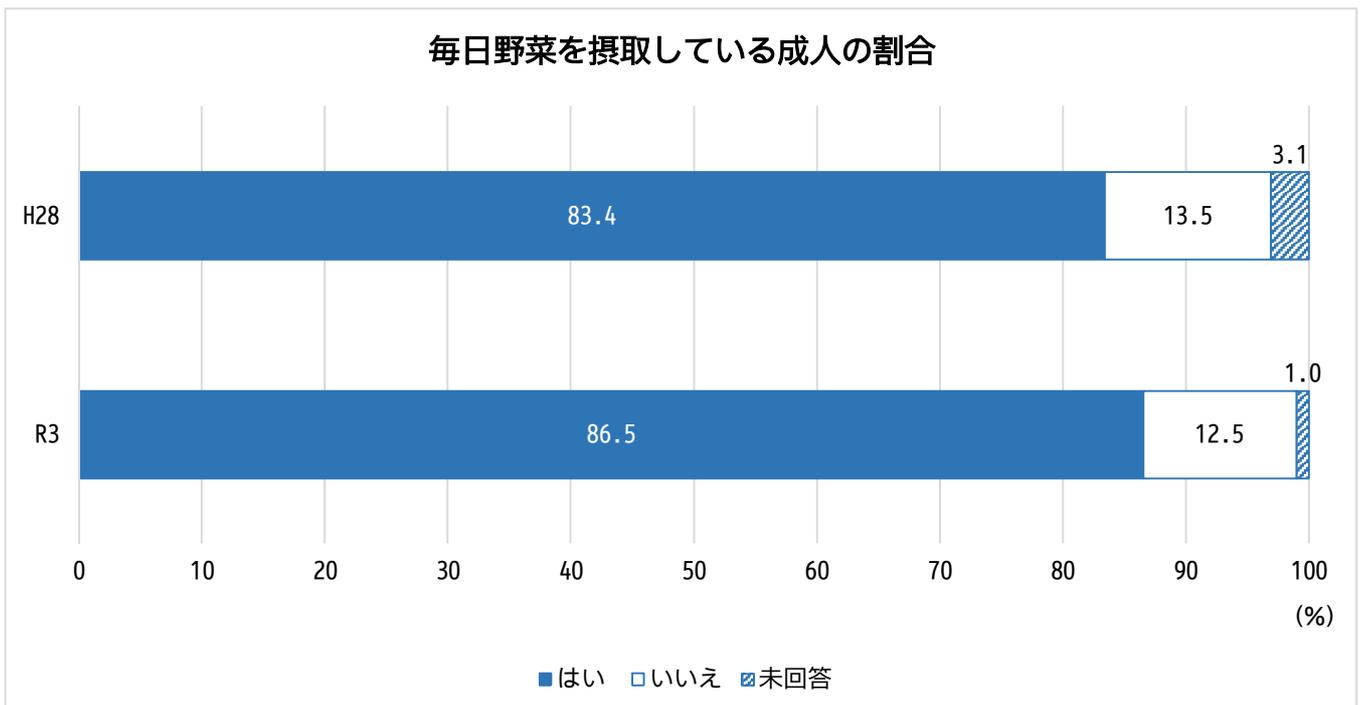
問 食事の時に食べ方（よく噛む、食べる順番など）を意識していますか。（ネットモニター問11）



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート 9

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	毎日野菜を摂取している人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
毎日野菜を摂取している人の割合	83.4%	86.5%	100%	B
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意に増加し、目標値に達していないが、改善傾向にある。(片側P値=0.035)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・食生活改善推進員による活動(食生活の講話・調理実習等) ・市町村先駆的実施支援事業(働き世代へ野菜摂取を推進するための民間企業への委託) 			
今後の課題	毎日野菜を摂取している人は増加しているが、野菜の1日の摂取量については、目標とする小鉢で5皿以上摂取できている人は、2.8%と低く、野菜の摂取不足が課題である。(アンケート結果p52) 現在実施している働き世代へのアプローチについては継続し、その他の年代に対しても野菜の摂取方法等の周知や自然に野菜が摂取できる食環境づくりの取組みが必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

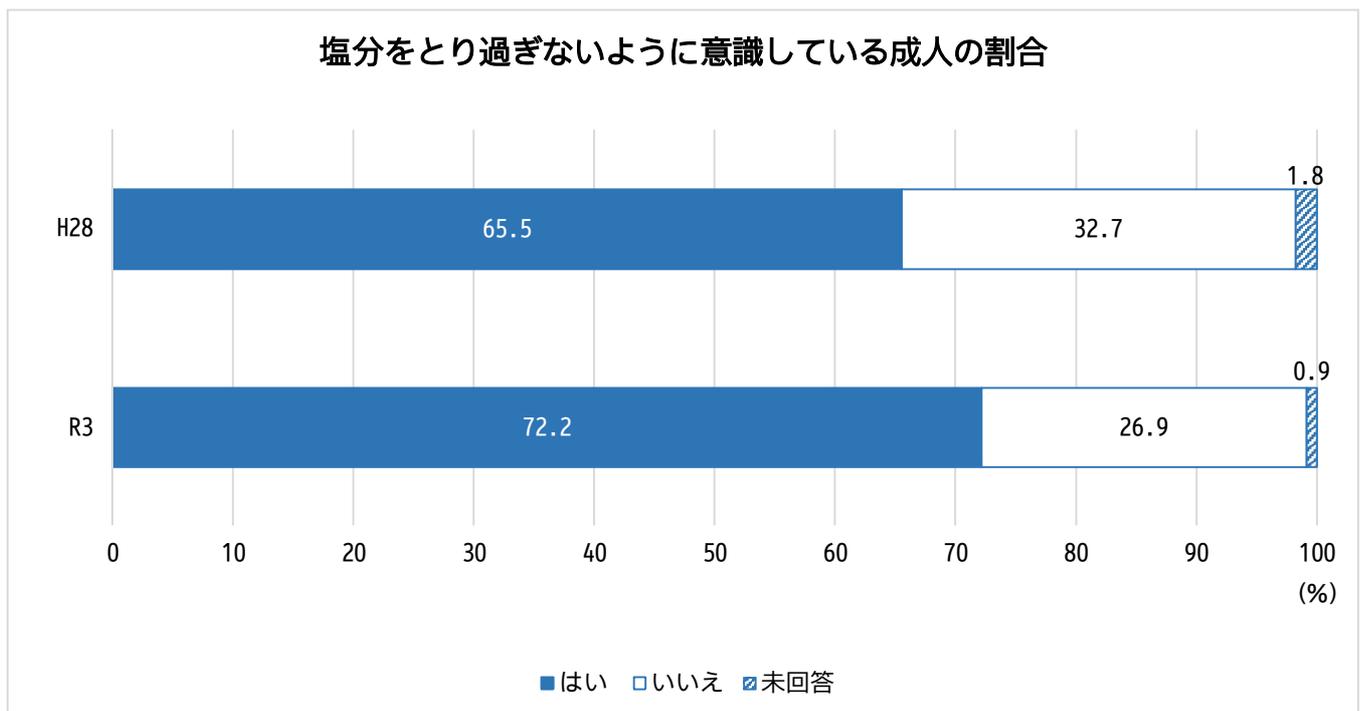
問 毎日の食事で野菜を食べていますか。(成人票_食育5)



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート10

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	塩分をとり過ぎないように意識している成人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
塩分をとり過ぎないように意識している成人の割合	65.5%	72.2%	75%	B
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意に増加し、目標値に達していないが、改善傾向にある。(片側P値=0.001)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活改善推進員による活動(食生活の講話・調理実習等) ・健康教育、出前講座 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 			
今後の課題	塩分をとり過ぎないようにする意識は高まっているが、高校生から20歳代の若い世代の意識が低いことが課題である。(アンケート結果p52,p102)将来の生活習慣病予防のためには、若い世代への減塩について積極的な取組みが必要であり、個人の努力だけでなく、減塩が自然にできる食環境づくりを推進することが必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

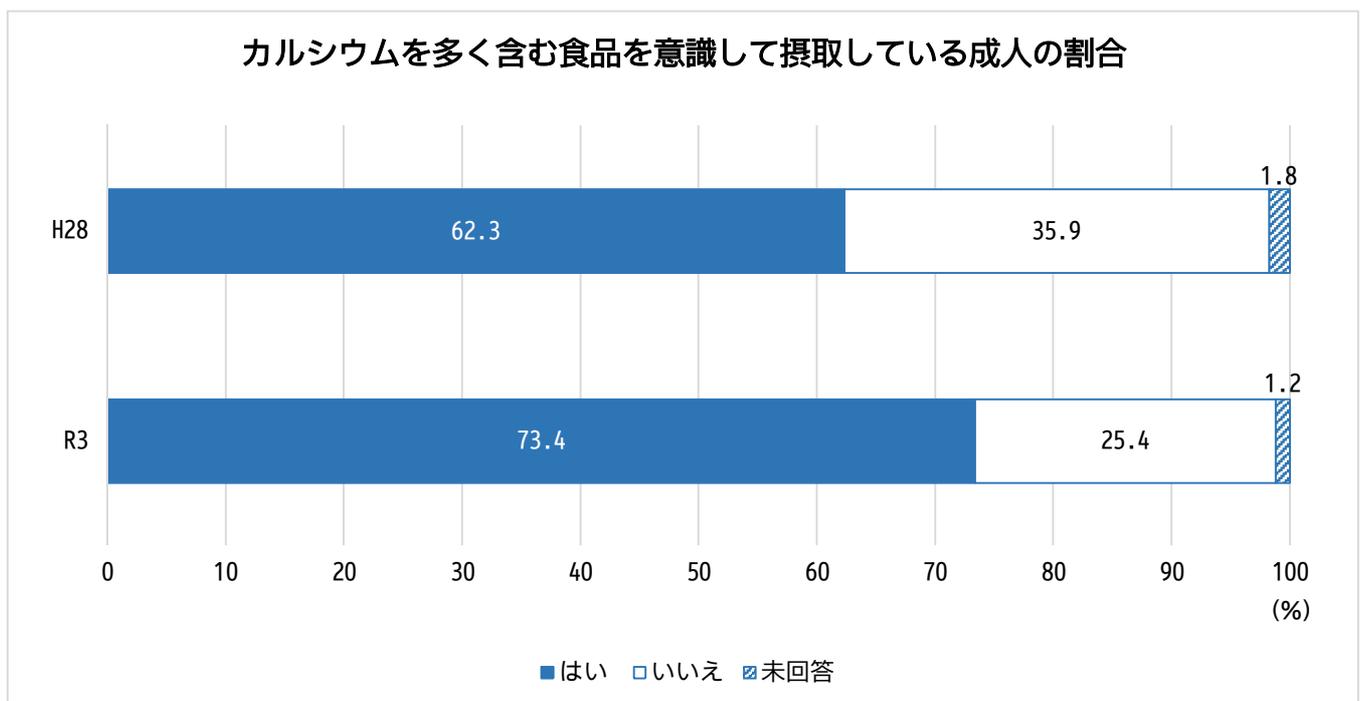
問 食事等で塩分をとりすぎないように意識していますか。(成人票_食育8)



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート11

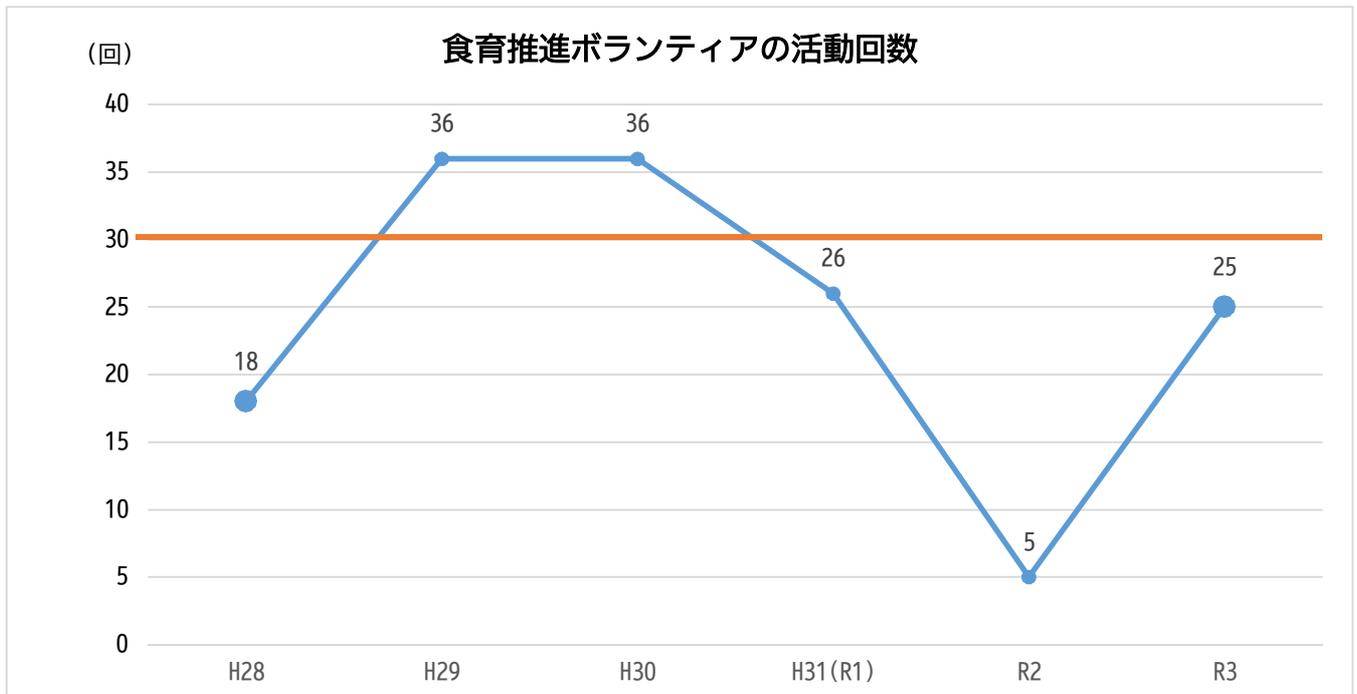
推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	カルシウムを多く含む食品を意識して摂取している成人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
カルシウムを多く含む食品を意識して摂取している成人の割合	62.3%	73.4%	75%	B
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意に増加し、目標値に達していないが、改善傾向にある。(片側P値=0.000)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活改善推進員による活動(食生活の講話・調理実習等) ・健康教育 ・骨コツ相談 			
今後の課題	目標値に近づいているが、骨密度が増加する10歳代から20歳代の意識は低い(アンケート結果p52,84,103)、今後もカルシウム摂取の重要性やカルシウムを豊富に含む食品等の周知を継続して実施する。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

問 食事等でカルシウムを多く含む食品を意識してとっていますか。(成人票_食育7)



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート12

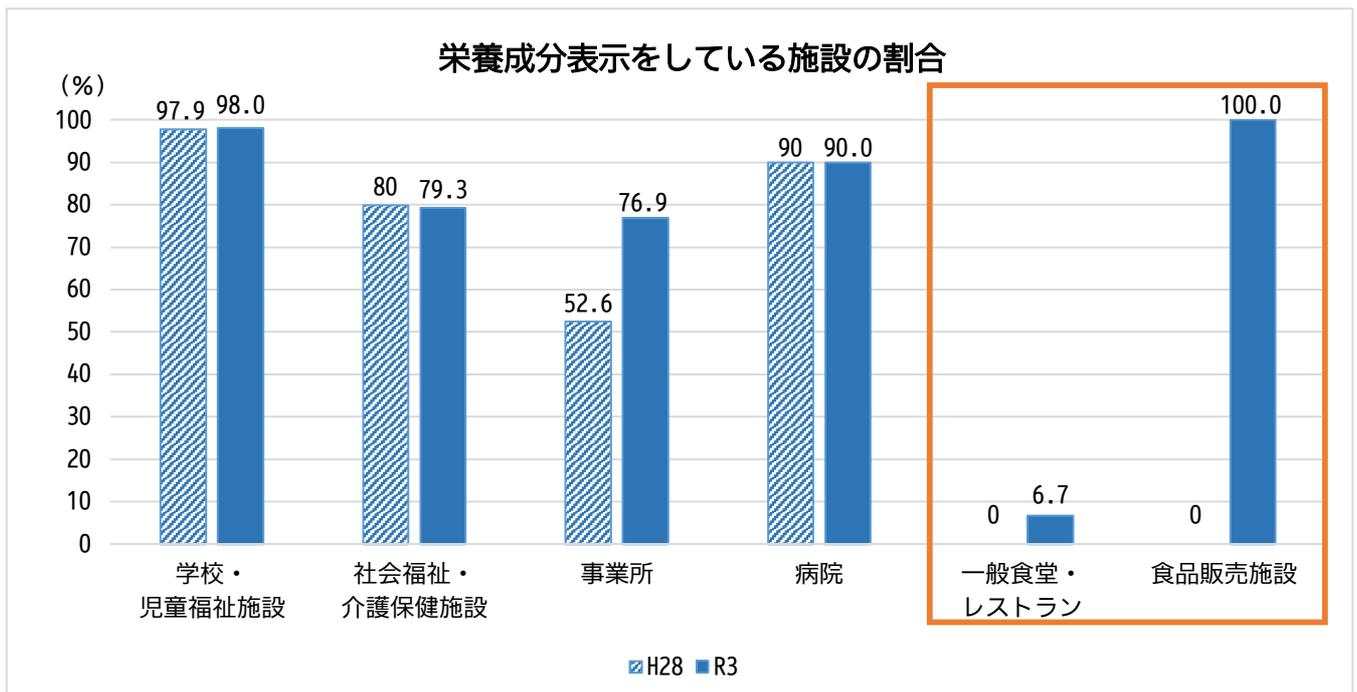
推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	食育推進ボランティアの活動回数の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
食育推進ボランティア の活動回数	18回	25回	30回	B
調査名	実績			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると7回増加しているが、目標値には達していない。新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和元年度・令和2年度と活動依頼が減少したが、令和3年度以降回復傾向にある。(相対的变化+38.9%)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・食育推進ボランティア活動 ・食育推進ボランティアスキルアップ研修会 			
今後の課題	食育推進ボランティア活動の周知は継続して行い、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、可能な限り活動を実施する。食育推進ボランティアにおいては、活動者数の減少や高齢化が見られることからボランティアの新規募集・育成についても検討する必要がある。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート13

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	栄養成分表示をしている施設の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
一般食堂・レストラン	0%	6.7%	25%	C
食品販売施設	0%	100%	50%	E
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	一般食堂・レストランにおいては、計画策定時のベースラインと比較すると有意な変化は認められなかった。食品販売施設においては、1施設のみの回答であり、誤差が大きいため、評価困難とした。 (一般食堂・レストラン：片側P値=0.150)			
関連する取組	・外食等栄養成分表示店(きらめき健康応援店)推進事業			
今後の課題	一般食堂・レストラン等に対し、外食等栄養成分表示店推進事業を通し、栄養成分表示についての働きかけを行ってきたが、ここ数年は登録店舗数も伸び悩んでいる状況にあり、働きかけの方法について事業内容の見直しを含めて検討する必要がある。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

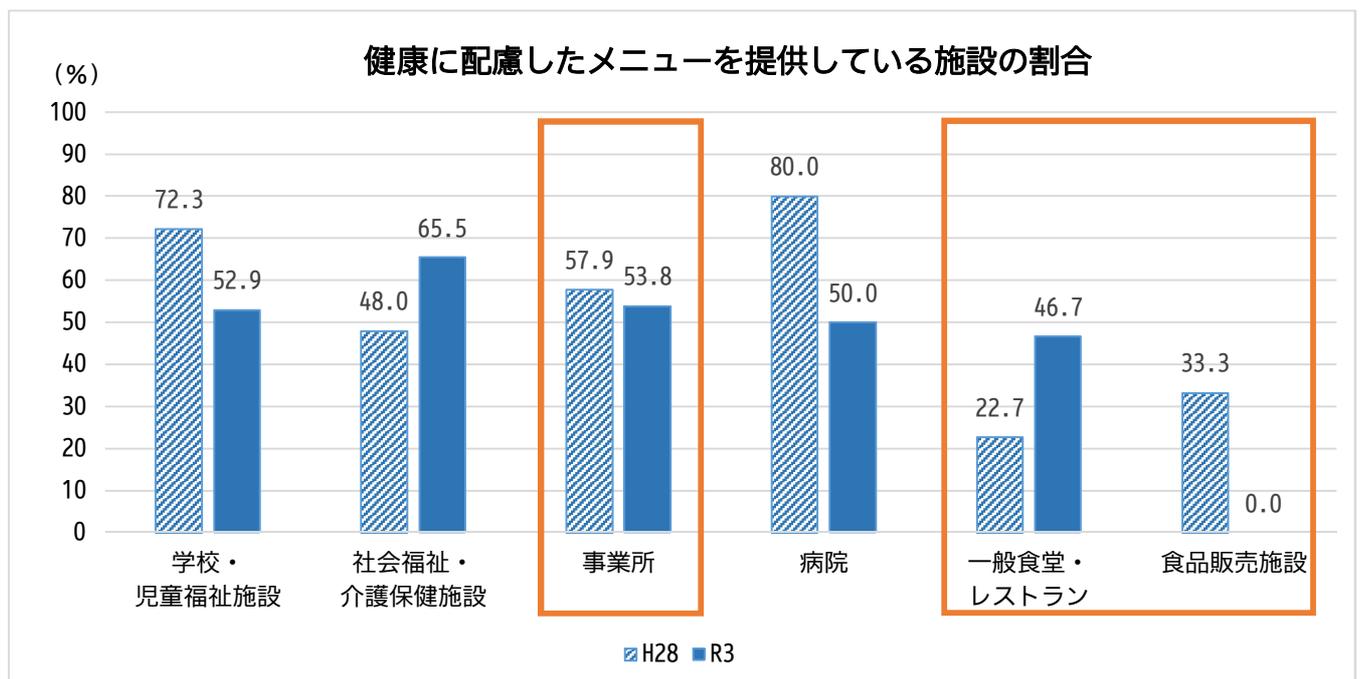
問 食事のメニュー表や惣菜のパッケージ、ポップ等に栄養成分表示をしていますか。
(飲食店票_3)
給食の献立表等に栄養成分表示をしていますか。(特定給食施設票_3)



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート14

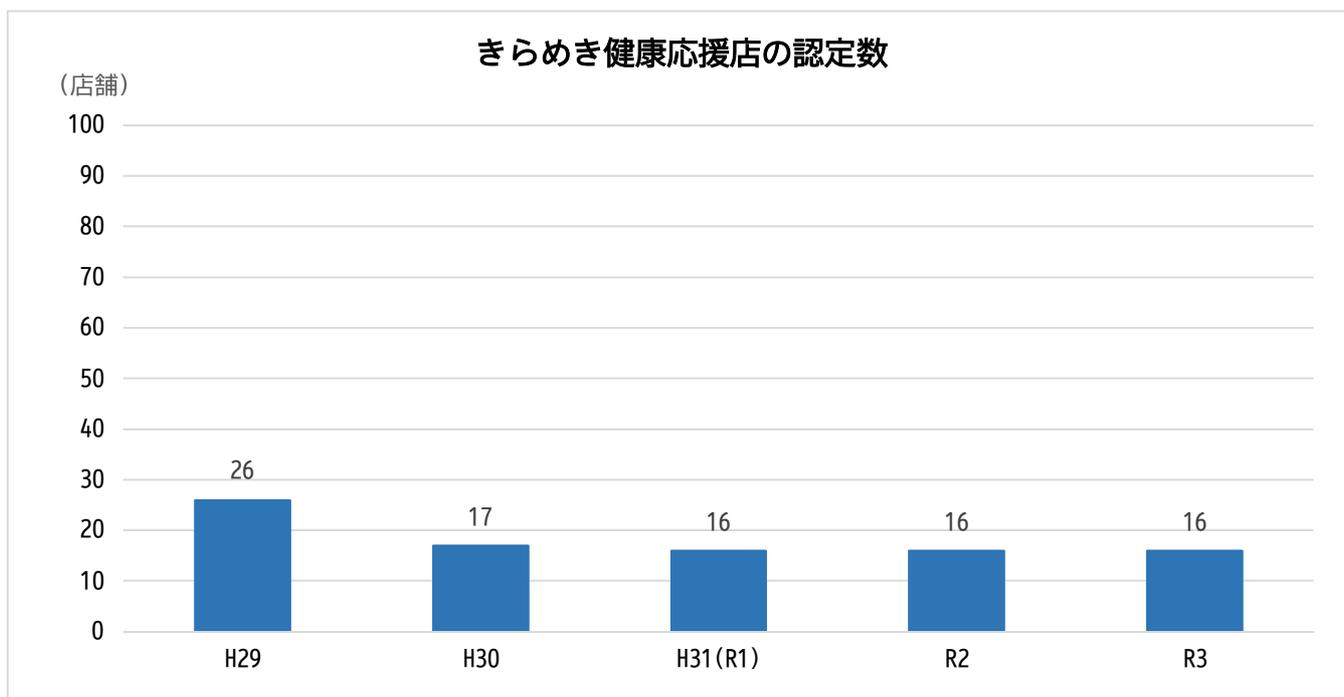
推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	健康に配慮したメニューの提供をしている施設の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
事業所給食	57.9%	53.8%	75%	C
一般食堂・レストラン	22.7%	46.7%	50%	C
食品販売施設	33.3%	0%	55%	E
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	事業所給食、一般食堂・レストランにおいては、計画策定時のベースラインと比較すると有意な変化は認められなかった。食品販売施設においては、1施設のみ の回答であり、誤差が大きいため、評価困難とした。 (事業所給食：片側P値=0.409、一般食堂・レストラン：片側P値=0.063)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特定給食施設等巡回指導 ・外食等栄養成分表示店(きらめき健康応援店)推進事業 			
今後の課題	特定給食施設等に対しては、巡回指導や研修回等で生活習慣病予防や減塩等の情報提供を継続して実施する。 一般食堂・レストラン等へは、外食等栄養成分表示店推進事業を通して働きかけをしてきたが、登録店舗数が伸び悩んでいる状況にあるため、健康に配慮したメニューの提供ができるよう、新たなサポート体制を含めた対策を検討する必要がある。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

問 健康に配慮したヘルシーメニューの提供をしていますか。(特定給食施設票_4、飲食店等票_4)



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート15

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	きらめき健康応援店の認定数（外食等栄養成分表示店登録数）の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
きらめき健康応援店の 認定数（外食等栄養成 分表示店登録数）	26店舗	16店舗	100店舗	D
調査名	実績			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると9店舗減少し、悪化傾向にある。 (ベースラインからの相対的変化-38.5%)			
関連する取組	・外食等栄養成分表示店(きらめき健康応援店)推進事業			
今後の課題	外食等栄養成分表示店推進事業は、現行の実施要領では応援店の認定基準を満たす店舗が少なく、ここ数年は登録店舗数も伸び悩んでいる状況であるため、食環境整備につながるよう、事業内容の見直しを検討する必要がある。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

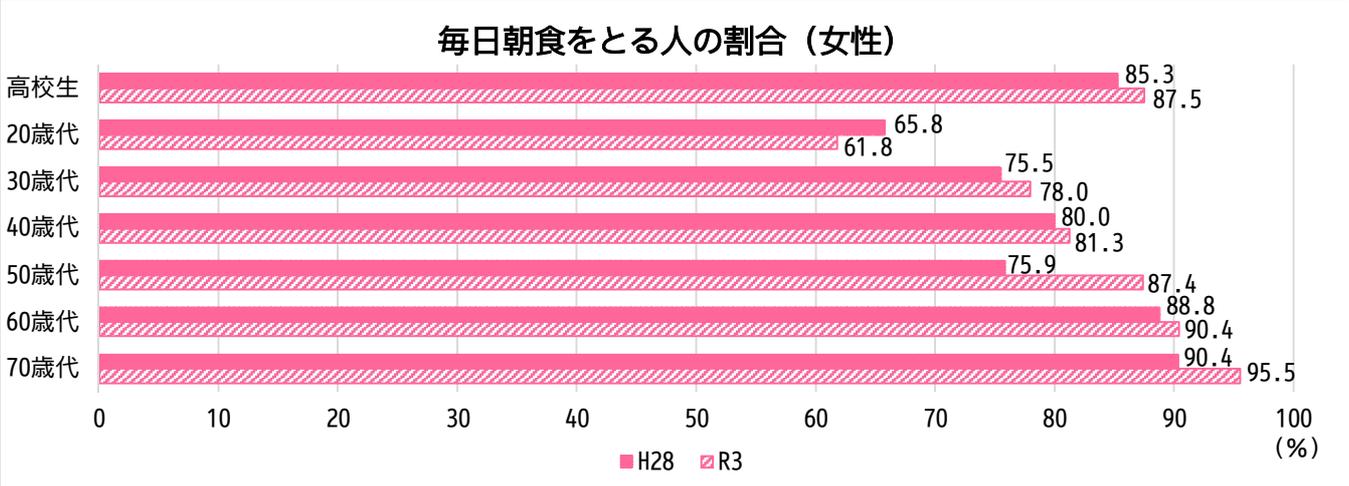
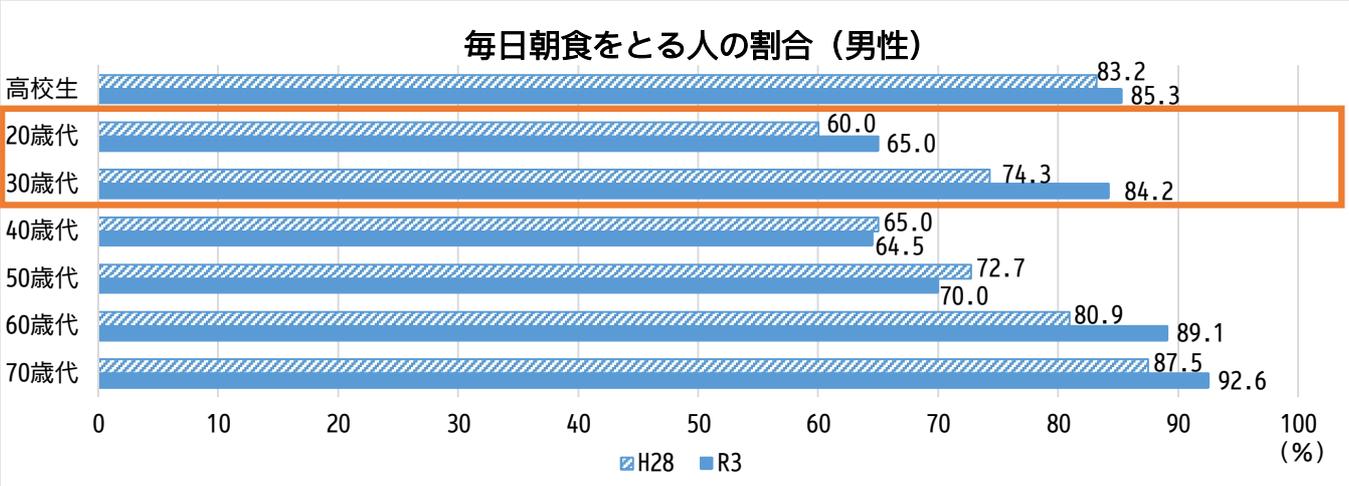
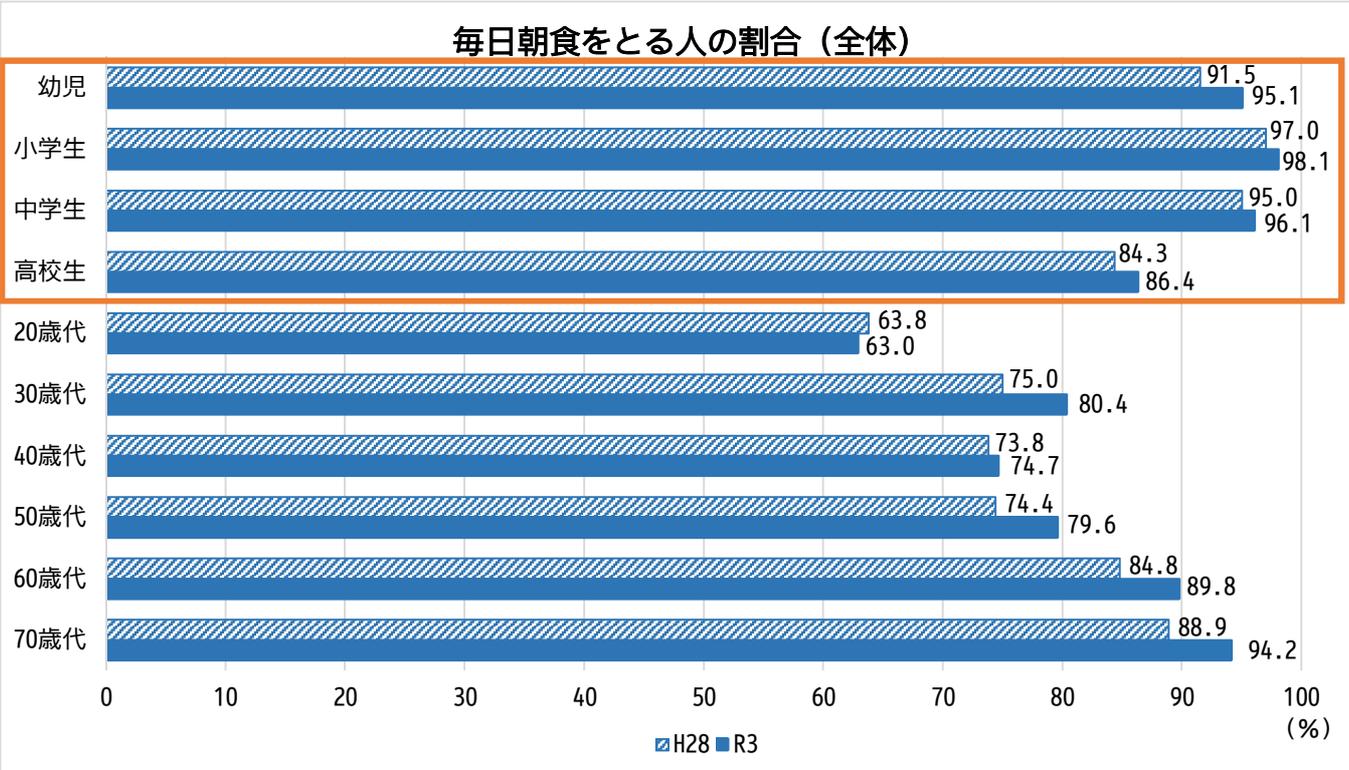


第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート16

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進／保育所・幼稚園・学校における食育の推進				
目標項目	毎日朝食をとる人の割合の増加				
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価	
幼児	91.5%	95.1%	100%	B	
小学生	97.0%	98.1%	100%	B	
中学生	95.0%	96.1%	100%	B	
高校生	84.3%	86.4%	90%	C	
20歳代男性	60.0%	65.0%	85%	C	
30歳代男性	74.3%	84.2%	85%	C	
調査名	(幼児、高校生、20・30歳代男性) H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査 (小学生、中学生) 児童生徒の朝食摂取状況調査				
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると幼児・小学生・中学生は有意に増加し、目標値に達していないが、改善傾向にある。高校生・20歳代男性・30歳代男性には、有意な変化は認められなかった。 (幼児：片側P値=0.026、小学生：片側P値=0.000、中学生：片側P値=0.000、高校生：片側P値=0.156、20歳代男性：片側P値=0.372、30歳代男性：片側P値=0.148)				
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食教室、1.6歳児・3歳児健診での栄養指導・相談 ・早寝・早起き・朝ごはん運動の推進 ・食育推進ボランティア活動 ・食生活改善推進員による活動（食生活の講話・調理実習等） ・食育月間の展示、リーフレットの配布(計画市民版等)、健康教育等 				
今後の課題	<p>(幼児期) 幼児期の朝食の摂取には、親の生活リズムや食習慣が影響すると考えられる。朝食及び生活リズムを整えることの重要性について全世代を通して啓発する必要がある。</p> <p>(学童期) 今後も目標に向け、啓発を継続する必要がある。児童生徒、保護者に配布物等を通して「早寝・早起き・朝ごはん運動」を推進する。また、食に関する正しい知識と望ましい生活習慣を身につけるための教育を推進するなど、学校保健委員会や食育事業の活性化を図るとともに、家庭・地域・専門機関等との連携を図る。</p> <p>(高校生～成人) 目標項目の指標である高校生や若い男性の状況に変化はなく、アンケート調査結果からも20歳代～50歳代の朝食の欠食が課題である。若い世代・働き世代へウェブサイトやSNSなどICTを活用した取組みの充実や、事業者と連携した取組みが必要である。</p>				
担当所属	こども部こども家庭未来課、学校教育部学校管理課、保健福祉部保健所健康づくり課				

第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート16（グラフ）

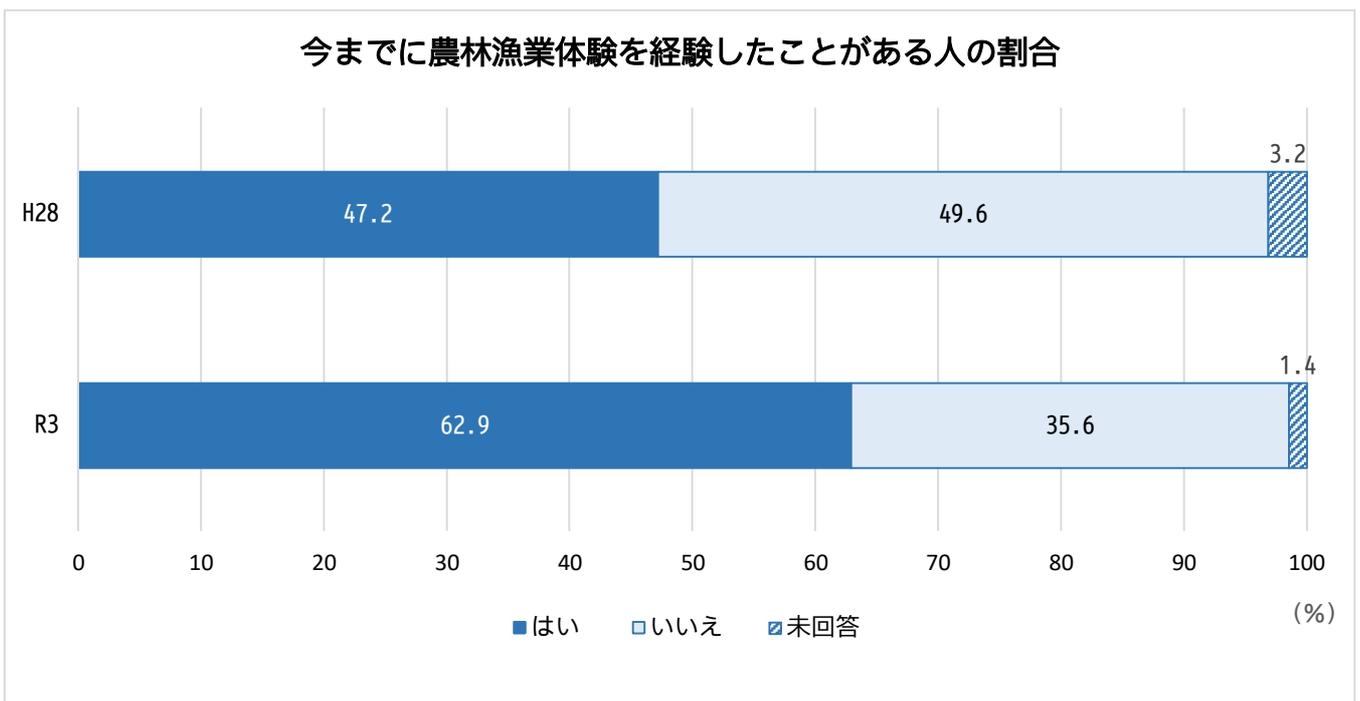
問 朝食を食べる頻度はどのくらいですか。（母子票_食育3、高校生_食育3、成人票_食育3）



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート17

推進の方向性	食と農の連携や環境と調和のとれた食育の推進			
目標項目	今までに農林漁業を経験したことがある人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
今までに農林漁業を経験したことがある人の割合	47.2%	62.9%	55%	A
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意に増加し、目標値を達成している。 (片側P値=0.000)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい体験農園（園芸畜産振興課園芸振興センター） ・学校農園奨励事業(郡山市民食糧問題懇話会) ・キッズガーデン（郡山農業青年会議所） 			
今後の課題	市民が食と農に対して関心を持ち理解を深めるために、農業体験の機会の提供や周知啓発を継続していく必要がある。			
担当所属	農林部園芸畜産振興課、農業委員会			

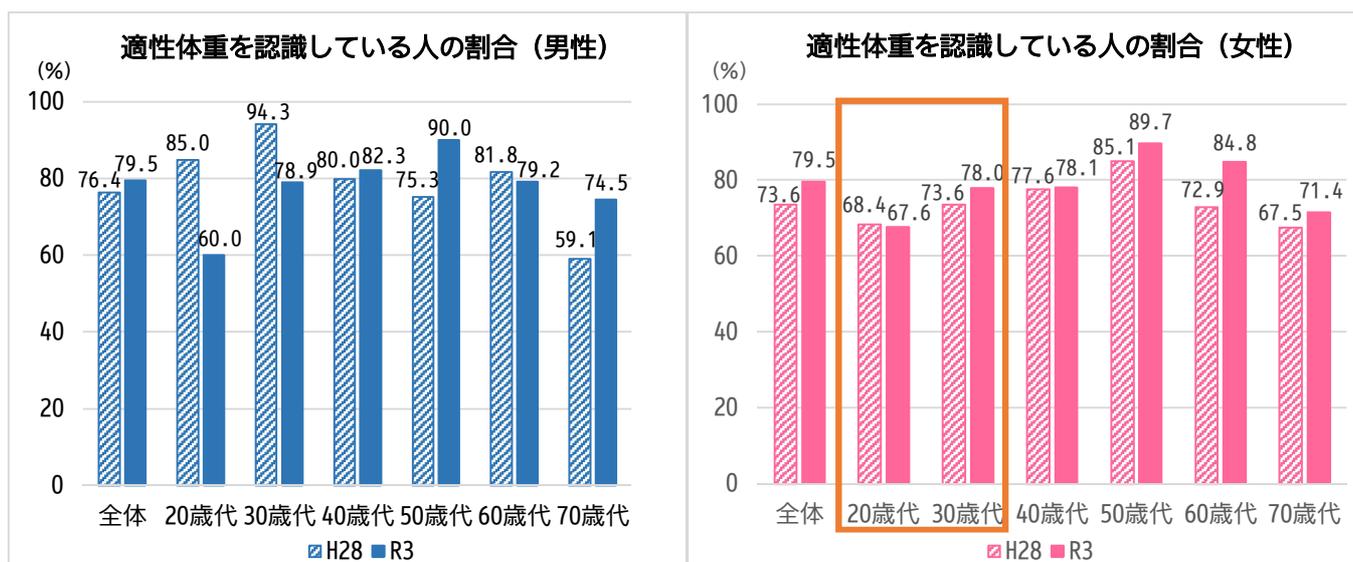
問 今までに農林漁業体験を経験したことがありますか。（成人票_食育17）



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート18

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	自分の適性体重を認識している成人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
20歳代女性	68.4%	67.6%	90%	C
30歳代女性	73.6%	78.0%	90%	C
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較して20歳代・30歳代女性ともに有意な変化は認められず、目標値に達していない。 (20歳代女性：片側P値=0.471、30歳代女性：片側P値=0.294)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活改善推進員による活動（食生活の講話・調理実習等） ・健康教育 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 			
今後の課題	20歳代・30歳代女性の適正体重への認識に変化はなく、20歳代男性においても理想と考えている体重と適正体重に差があることから、若い世代への適切な情報提供が必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

問 身長・体重はどれくらいですか。また、理想と考えている体重はどのくらいですか。
(成人票_生きいき6)

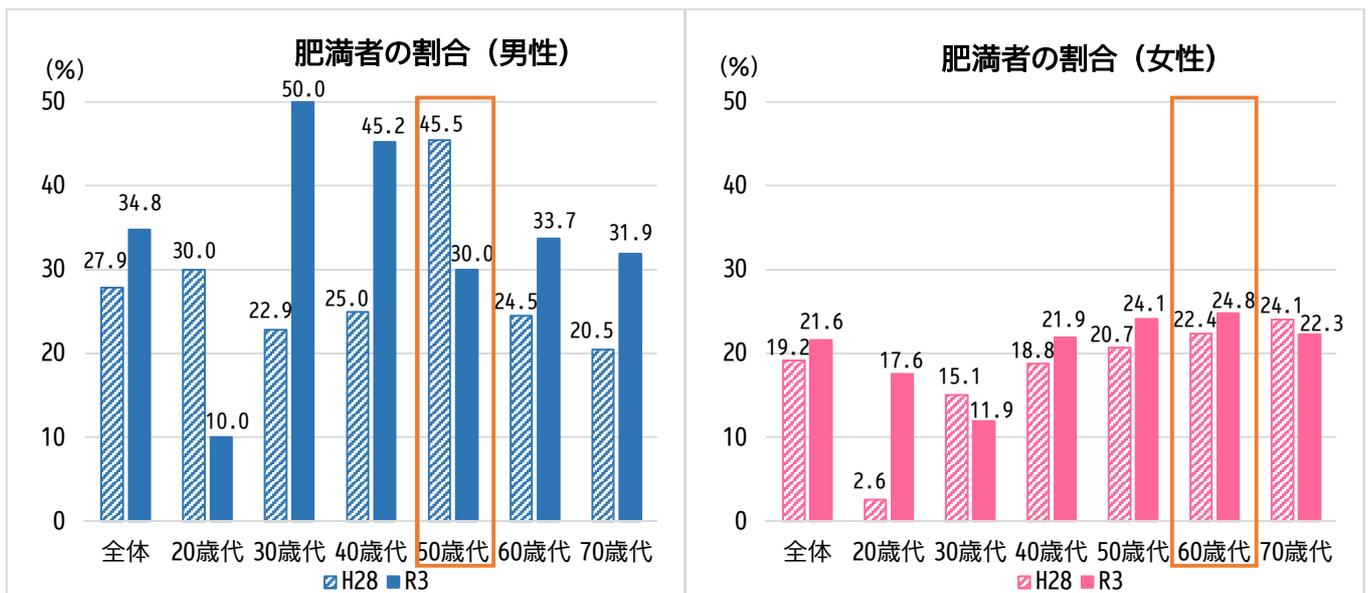


※自分の適性体重を認識している人=身長と理想体重でのBMI(肥満度を表す体格指数)が適正の人

第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート19

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	肥満者の割合の減少			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
50歳代男性	45.5%	30.0%	18%	B
60歳代女性	22.4%	24.8%	12%	C
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	50歳代男性においては、計画策定時のベースラインと比較すると有意に減少し、改善傾向にあるが目標値には達していない。60歳代女性においては、有意な変化は認められなかった。 (50歳代男性：片側P値=0.025、60歳代女性：片側P値=0.334)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活改善推進員による活動（食生活の講話・調理実習等） ・健康教育 ・リーフレット（計画市民版等）の配布 			
今後の課題	肥満者が増加する青壮年期を対象とした事業実施により、適正体重の維持や健全な食生活の実践に向けた正しい知識の普及・啓発が必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

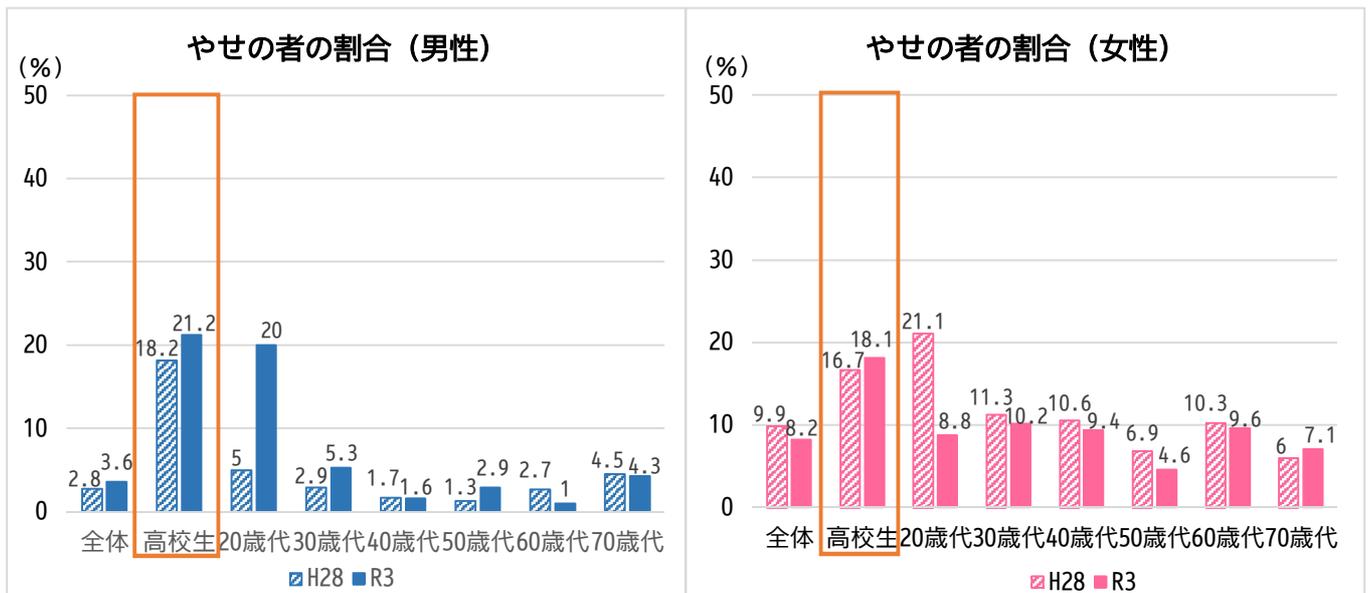
問 身長・体重はどれくらいですか。（成人票_生きいき6）



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート20

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	やせの者の割合の減少			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
高校生男性	18.2%	21.2%	10%	C
高校生女性	16.7%	18.1%	10%	C
調査名	H28健康づくりに関するアンケート調査、R3健康づくり・食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	高校生男性・女性ともに計画策定時のベースラインと比較して、有意な変化は認められず、目標値に達していない。 (高校生男性：片側P値=0.184、高校生女性：片側P値=0.327)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> リーフレット(計画市民版等)の配布 食生活改善推進員による活動(食生活の講話・調理実習等) 			
今後の課題	全年代の中でも高校生はやせの割合が高く、今回の評価からも減少傾向が見られないことから、バランスのよい食事や食事の適正量など正しい情報提供が必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

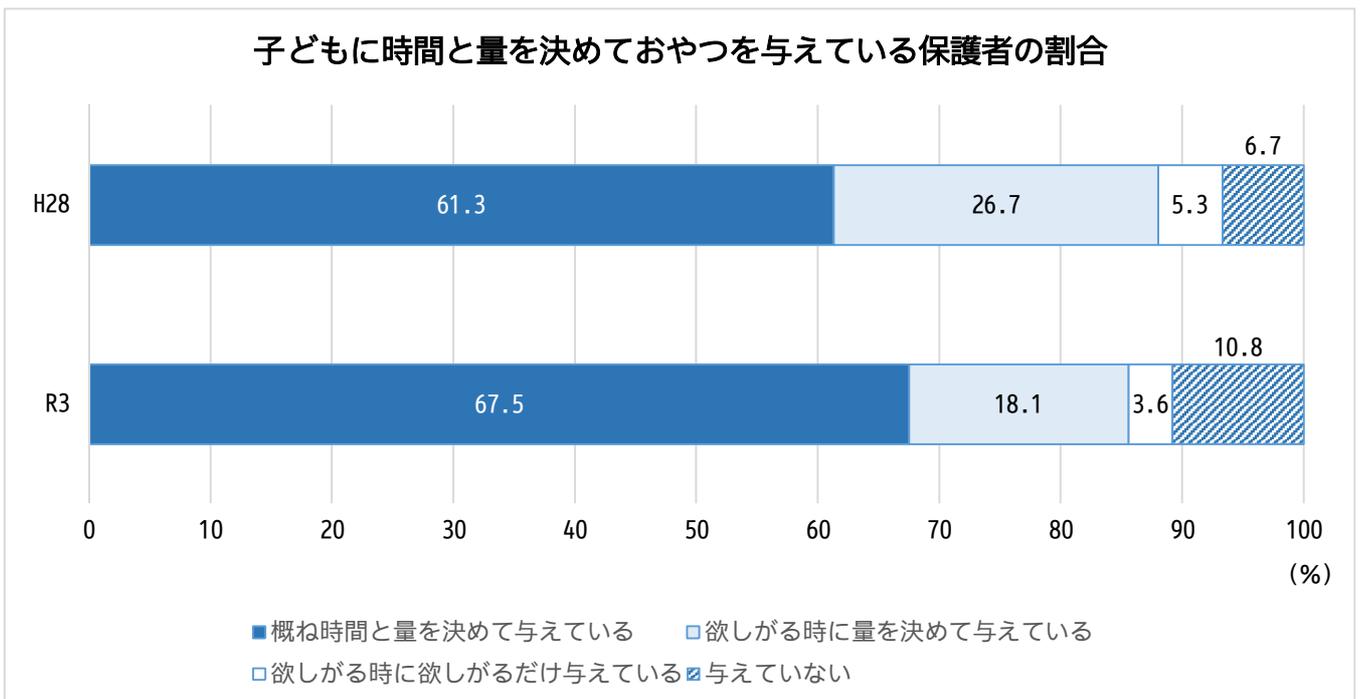
問 身長・体重はどれくらいですか。(高校生票_生きいき1、成人票_生きいき6)



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート21

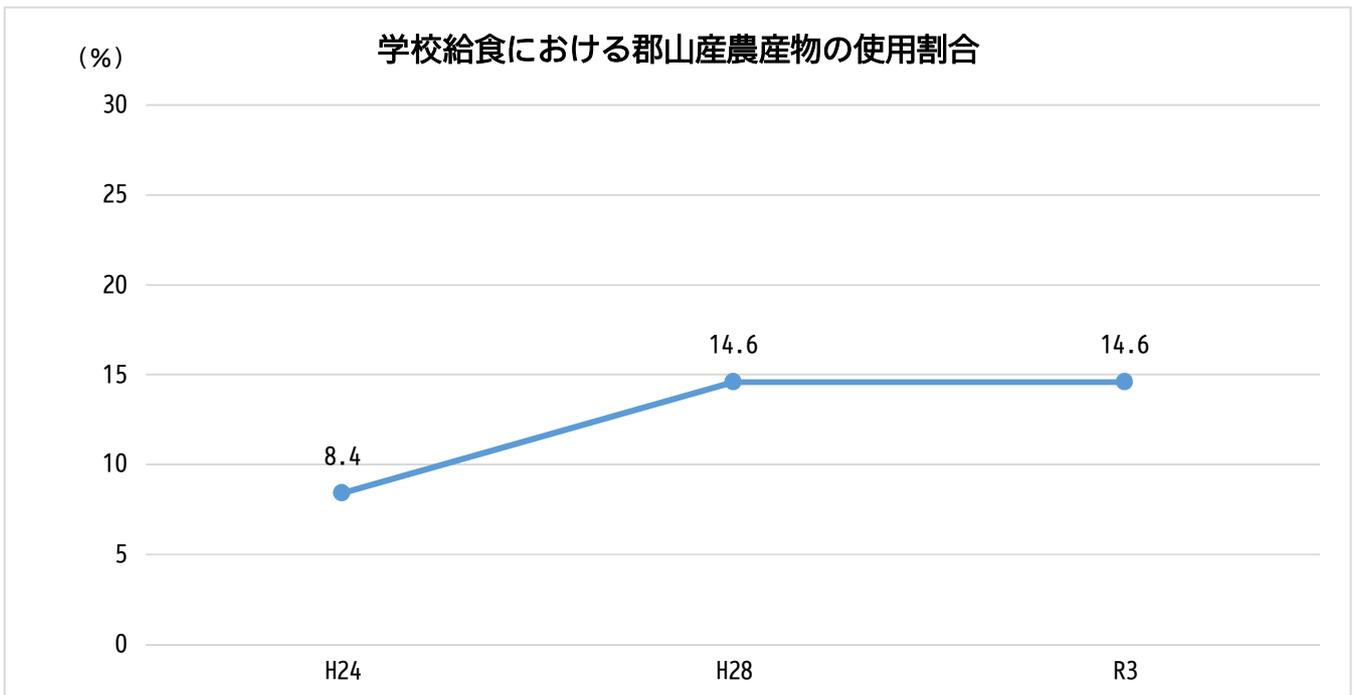
推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	子どもに時間と量を決めておやつを与えている保護者の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H29(2017)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
子どもに時間と量を決めておやつを与えている保護者の割合	61.3%	67.5%	75%	C
調査名	まちづくりネットモニター			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと比較すると有意な変化は認められず、目標値に達していない。(片側P値=0.208)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・1.6歳児健診・3歳児健診時の栄養指導、リーフレットの配布など ・食育推進ボランティア活動 ・食生活改善推進員の活動(食生活の講話・調理実習等) ・小学1年生とその保護者へ食育のチラシ配布 ・各歯科保健事業での栄養指導・相談、チラシ配布 			
今後の課題	肥満や虫歯の原因になりにくいおやつの量や与え方について、各種活動をとおして継続した周知啓発が必要である。			
担当所属	こども部こども家庭未来課、保健福祉部保健所健康づくり課			

問 子どもに時間と量を決めておやつを与えていますか。(ネットモニター問16)



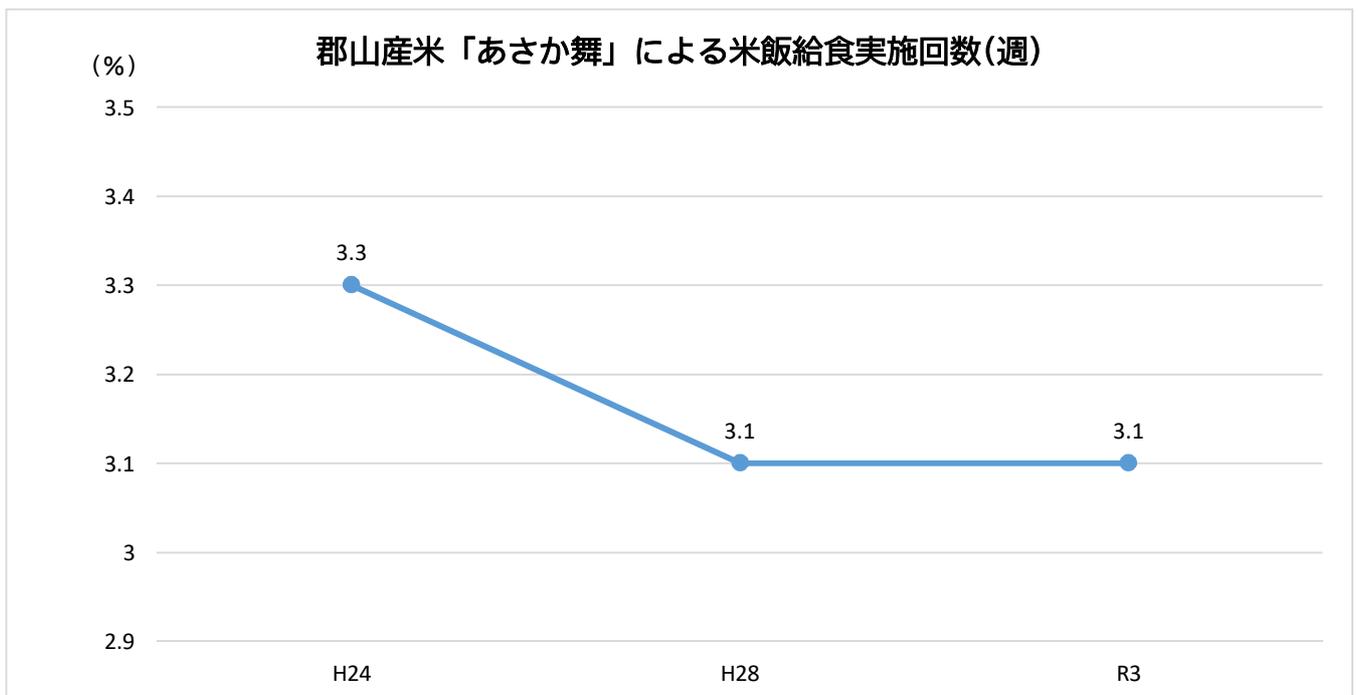
第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート22

推進の方向性	保育所・幼稚園・学校における食育の推進			
目標項目	学校給食における郡山産農産物の使用割合の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
学校給食における郡山産農産物の使用割合	14.6%	14.6%	30%	C
調査名	学校給食地場産物活用状況調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと最終評価時の値は、各14.6%であり、学校給食における郡山産農産物の使用割合の増加は見られず、目標値に達していない。 (ベースラインからの相対的変化0%)			
関連する取組	・学校給食			
今後の課題	県産品の使用割合は、平成28年度が26.0%、令和3年度が36.0%と10%上昇している。郡山産農産物は量の確保が困難であること、給食費が限られていることから、使用し続けることが難しい。今後も献立の検討や価格の比較を行いながら、郡山産農産物の使用を推進していく。			
担当所属	学校教育部学校管理課			



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート23

推進の方向性	保育所・幼稚園・学校における食育の推進			
目標項目	郡山産米「あさか舞」による米飯給食実施回数（週）の増加			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
郡山産米「あさか舞」 による米飯給食実施回 数（週）	3.1回	3.1回	3.3回	C
調査名	実績			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと最終評価時の値は、各3.1回であり、「あさか舞」の米飯給食実施回数の増加は見られず、目標値に達していない。 (ベースラインからの相対的変化0%)			
関連する取組	・学校給食			
今後の課題	実施回数に関して、米の価格や他の食材の価格及び給食費を考慮して回数を決めており、令和4年度は週3.3回で実施している。令和5年度は週3.5回にする計画であり、今後も給食にあさか舞を使用しながら啓発に努めていく。			
担当所属	学校教育部学校管理課			



第三次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート24

推進の方向性	安全・安心な食生活からの食育の推進			
目標項目	収去検査の違反件数			
指標	策定時の ベースライン H28(2016)年	評価 R3(2021)年	目標値 R4(2022)年	評価
収去検査の違反件数	0件	0件	0件	A
調査名	実績			
指標の評価・分析	計画策定時のベースラインと最終評価時の値は、各0件であり、収去した食品の違反は見られず、目標値を達成している。 (ベースラインからの相対的変化0%)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・監視指導 ・自主検査の指導 など 			
今後の課題	今後も継続して規格基準のある食品を収去検査し、郡山市内の食品製造施設から規格基準違反の食品を出さないように監視指導することが課題である。			
担当所属	保健福祉部保健所生活衛生課			